

大志の学び舎

# 世田谷区立太子堂小学校

『教師は授業 家庭は愛情 地域で育つ 9年間』



皆に好かれるよりも 皆を好きになれる人に

校長 廣瀬 維謙

新しい年、令和8年がスタートしました。保護者、地域の皆様におかれましては、穏やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。さて、「一年の計は元旦にあり」と言われるように、皆様は新しい年の誓いは立てられたでしょうか。私はこんな言葉に興味を惹かれました。

「皆に好かれるよりも、皆を好きになれる人になろう」

実はこの言葉は、外国の童話からです。

ある母親に子どもが生まれました。母親は天に向かってお願いをします。「どうか、この子が誰からも好かれる子になりますように」と。そして願いが届き、その子は皆から好かれる子に育ちました。しかし、何をしても皆から好かれる子はどんどんわがままになっていきました。あるとき、母親は気付きました。「私の願いが間違っていました。どうか、この子が誰をも好きになれる人にしてください」と。その子はそれから、皆を好きになれる素晴らしい人になりました。

心理学には、「好意の返報性」という言葉があります。つまり「人は自分に好意をもってくれた相手を好きになりやすい」ということです。ですから、人間関係を高めるにはまず、自分から皆を好きになったり、相手の気持ちに共感したりすることです。これは、人が人らしく生きるための視点とも言えます。

遺伝子研究の世界的権威であった、故村上和雄名誉教授の著書『人生の暗号』によると、遺伝子研究で分かったことは、天才も凡才も遺伝子や潜在能力では1%も変わらない。変わるのは遺伝子のスイッチがONの状態なのか、OFFの状態なのかの違いで、遺伝子を目覚めさせる最良の方法は、相手に共感したり、感動したりすることが大切なのだそうです。また、コンピューターで「どんな人間が最後に生き残るか」を推測したところ、大方の予想が「強い人」「競争に勝ち抜く人」だったのに対して、その回答は「譲る心をもった人」だったそうです。

さらに、故村上和雄名誉教授は“人の心は他人のために献身的に努力しているとき、理想的な状態で遺伝子が働きます。自分の心を充実させたかったら、人の心を充実させる、という生き方をすればよいのです。”とも、書いていました、本来、「譲る心をもった生き物」として人間は、この世に創造されてきたのかもしれない。

本年も、太子堂小学校では人の心を大事にする子どもを育ててまいります。保護者、地域の皆様におかれましては、昨年同様、変わらずに本校の教育活動に御理解と御協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 1月の目標

人格の完成を目指して  
「感謝」

### <安全>

- ・規則正しい生活をしよう。

### <保健>

- ・外で元気にあそぼう。

### <給食>

- ・給食のマナーを身に付けよう。

### <あいさつ>

- ・気持ちのよいあいさつをしよう。

## 感謝

私たちを見守り、支え、育ててくれている人たちに、感謝の気持ちを伝えていますか？

人の親切に、いつも「ありがとう」って言うよ。

勉強やスポーツに力いっぱい取り組める毎日は嬉しいな。

地球上の生命の一つとして、わたしたちは自然の恵みの中で生きているんだ。



〒154-0004

世田谷区太子堂5-7-4

電話 03(3413)4621

FAX 03(3413)4799

Email: dai004@setagaya.ed.jp